

(科目コード : 2000220004CC)

【改訂】第18版(2016-03-11)

【科目】哲学

【科目分類】 一般科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 前期・1単位

【対象学科・専攻】 環境都市 4年

【担当教員】 柴田 修一

【授業目標】

哲学とはどのようなことを探求する学問なのか、また、その学問としての意義と目的、方法を理解することができる。

西洋哲学の歴史を踏まえながら、哲学の基本的諸概念を把握し、哲学の主要な問題について考察することができる。

哲学と近代科学との関係を考察し、近代科学の成立における哲学的思考の意義を把握することができる。

倫理、特に生命倫理に関する諸問題の議論を理解し、自分なりの生命倫理観をもつための基礎を築くことができる。

【教育方針・授業概要】

・本科目の総授業時間数は22.5時間である。

・はじめに古代ギリシア哲学に目を向け、哲学の起源を探り、哲学の成立過程と哲学的諸問題について理解する。さらに、近代哲学の先駆者として位置づけられるデカルトの思想に触れて学問としての哲学を捉え、哲学的に考える態度を養う。

・近代科学の成立と発展を哲学の視点から考察することを学び、科学哲学の出現と歴史を理解し、科学哲学のもつ重要な意義について考察する。

・生命倫理の成立過程を知り、近年の生命倫理の活発な議論を考察、検討する。そして、自分はどのような生命倫理の考え方をもちのかを探究する。また、倫理観は様々な立場があることを認識し、相互に理解し合うことの重要性を了解する。

【教科書・教材・参考書等】

参考書：『西洋哲学史 古代から中世へ』：熊野純彦：岩波新書

参考書：『科学・哲学・信仰』：村上陽一郎：レグルス文庫

参考書：『科学論の展開』：チャルマース：恒星社厚生閣

【メッセージ】

はじめて哲学を学ぶにあたって戸惑いを抱くことが少なくないと思われるが、それは個人的な能力によるものではなく、誰もが同様に抱く不安である。哲学という学問の特質ともいえる思考方法は他の諸学問と際立って異なり、哲学に習熟するためには哲学的思考を重ね深めることが必要であり、粘り強く考える態度が求められます。ぜひ哲学という学問に関心を持ち続けながら授業に臨んでください。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	哲学という学問の意義、目的、方法を理解する。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート10%の割合で評価する。
2	哲学がこれまで対象としてきた主要な問題について学ぶ。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(哲学)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	哲学の起源と意味 (1)	古代ギリシア哲学を通じて哲学の起源を探究する。		
第2回	哲学の起源と意味 (2)	古代ギリシア哲学の多様な思想の萌芽に触れる。		
第3回	哲学の体系化 (1)	古代ギリシアの哲学者プラトンの思想を学ぶ。		
第4回	哲学の体系化 (2)	プラトン哲学の現代的意義を探究し、理解する。		
第5回	哲学の体系化 (3)	古代ギリシアの哲学者アリストテレスの思想を学ぶ。		
第6回	哲学の体系化 (4)	アリストテレス哲学の現代的意義を探究し、理解する。		
第7回	中間試験			
第8回	デカルトの方法的懐疑	デカルト哲学における方法的懐疑について理解する。		
第9回	デカルト哲学の意義	デカルト哲学のもつ現代的意義を探究し、理解する。		
第10回	科学哲学 (1)	近代科学の哲学的基礎と問題を考察する。		
第11回	科学哲学 (2)	科学哲学の歴史的展開を学ぶ。		
第12回	科学哲学 (3)	科学哲学の主要な問題とその論争に触れる。		
第13回	科学哲学 (4)	科学哲学の存在意義について考察する。		
第14回	生命倫理 (1)	生命倫理の成立過程を学ぶ。		
第15回	生命倫理 (2)	生命倫理の主要な問題を理解し、自分の生命倫理観を創造する。		